

令和6年度 学校経営計画・学校評価

■4月4日提出

□10月3日提出

□3月14日提出

学校番号

33

佐川

高等学校

課程

定

| | | | |
|-------------|--|------|--|
| 高知県の教育の基本理念 | (1)学が意欲にあふれ、心豊かでたくましく夢に向かって羽ばたく人 (2)郷土への愛着と誇りを持ち、高い志を掲げ、日本や高知の未来を切り拓く人 (3)多様な個性や生き方を互いに認め、尊重し、協働し合う人 | 基本方針 | ①予測困難な社会を生き抜く力を身につけるための教育の推進 ②多様な背景・特性・事情等を踏まえた包摂的な教育・支援の推進 ③生涯にわたって学ぶことができる環境づくりと活動・取組の推進 ④各種施策を総合的・計画的に推進するために必要な基礎的・基盤的な環境・体制等の整備 |
| | 【アドミッション・ポリシー】(入学受け入れ方針) ○「学び直し」の気持ちがあり、毎日の授業を大切にできる生徒 ○他者を思いやる気持ちがあり、積極的に協働しようとする生徒 ○自分で考え、判断し、行動し、地域のために貢献したいと考えている生徒 | | 【カリキュラム・ポリシー】(教育課程の編成・実施方針) ○支援が必要な生徒の「学び直し」を通じて、学ぶことの楽しさを体感させ、授業のなかで自分の考えを発表したり、「伝える」場面を多くしたりして、主体的に学ぶ学習を実践します。 ○生徒の適性・興味・進路希望に応じて、きめ細かな指導を行います。生徒の進路実現につながる力を身につけるための学習を行います。そのためにも生徒に役割を与え、課題解決のために何ができるかを考え、実践します。 |
| スクール・ポリシー | 【グラデュエーション・ポリシー】(育成を目指す生徒の資質・能力) ○コミュニケーション力…言語を適切に用いて、他者に気持ちや考えを伝えたり、円滑に他者とのコミュニケーションを図ったりする力 ○キャリアデザイン力…地域を愛する心を持ち、卒業後も地域と関わることができる力 | | |

| 学校関係者評価 | |
|-------------------|--|
| 【学力の向上】 評価 【 B 】 | ・特段、悪評を聞くこともなく、田舎らしい学校生活を送っているのではと推察します。個々にあった指導と個性を伸ばし、社会に馴染める教育をお願いしたい。 ・県独ア 問11「学校の授業では、学んだ知識をもとに自ら考え、まとめたり、発表したりする機会がある」における肯定的回答:2回目 91.65%は評価できる。 |
| 【社会性の育成】 評価 【 A 】 | ・県独ア 問18「自分という存在を大切に思える」における肯定的回答:2回目 75%(-6.25p)は、コミュニケーションの基礎となる自己肯定感が若干減少しているが、一定評価できる。 ・県独ア 問30「将来の夢や目標を持っている」における肯定的回答:2回目56.25%(+25p)は大きく上昇しており、今後さらなる工夫・改善に期待する。 |
| 【チーム学校】 評価 【 B 】 | ・授業改善については、学評アの肯定的回答:生徒91% 保護者100% 教員83%と概ね取り組んでいる。 ・生徒支援生徒理解については、学評アの肯定的回答:生徒82% 保護者90% 教員84%と概ね取り組んでいる。 ・学校の振興、働き方改革については、高い結果となっており、今後も継続に努めてほしい。 |

(評価)A:目標を十分に達成 B:目標をほぼ達成 C:やや不十分 D:不十分

| 重点項目 | 育成を目指す資質・能力【P】 | 現状と目標(評価指標) | 具体的な取組内容【D】 | 中間評価【C】 | 中間評価後の取組内容【P・D】 | 年度末評価【C】 | 見直しのポイント【A】 |
|--------|---|---|--|---|---|---|---|
| | 学力の向上 | ★確かな学力 ○基礎的・基本的・発展的な知識及び技能 ○思考力、判断力、表現力等 ○学びに向かう力、人間性等 ★将来を見通した学び ○将来にわたって学び続ける意欲(学習習慣を含む) | ①授業外学習時間の増加 ・県独ア 問2において「授業外学習(家庭学習等)をほとんどしない」と回答:2回目=1回目-5p以上 ②将来のための勉強をしている生徒の増加 ・県独ア 問14「将来の可能性を広げるために勉強ががんばっている」における肯定的回答:2回目=1回目+5p以上 | (A) 授業での学習のねらいの提示、振り返りの場面の設定 (B) 生徒に思考・判断・表現させる機会の確保 ・発表機会がある授業の実施 (C) ICTを活用した「分かる授業」の実施 ・タブレットを毎日、持参し、活用し、持ち帰る習慣の確立 | B ①授業外学習時間の増加 ・県独ア 問2において「授業外学習(家庭学習等)をほとんどしない」と回答:1回目 68.75% ②将来のための勉強をしている生徒の増加 ・県独ア 問14「将来の可能性を広げるために勉強ががんばっている」における肯定的回答:1回目 43.75% | (A) 授業での学習のねらいの提示、振り返りの場面の設定 (B) 生徒に思考・判断・表現させる機会の確保 ・発表機会がある授業の実施 (C) ICTを活用した「分かる授業」の実施 ・タブレットを毎日、持参し、活用し、持ち帰る習慣の確立 | B ①授業外学習時間の増加 ・県独ア 問2において「授業外学習(家庭学習等)をほとんどしない」と回答:2回目 81.25% (+12.5p) ②将来のための勉強をしている生徒の増加 ・県独ア 問14「将来の可能性を広げるために勉強ががんばっている」における肯定的回答:2回目 56.25% (+12.5p) |
| 社会性の育成 | ★豊かな心 ○自己存在感、自己有用感、コミュニケーション力、自己決定力等 ★多様性・包摂性 ○キャリアデザイン力(やりぬく力) ○他者への思いやり(地域・社会貢献、ボランティア活動等も含む) | ①県独ア 問18「自分という存在を大切に思える」における肯定的回答:2回目=1回目+5p以上 ②県独ア 問21「高校入学以降、地域や社会をよくするために、地域貢献活動やボランティア活動などを行ったことがある」における肯定的回答:2回目=1回目+5p以上 | (A) 学校行事等における人間関係づくりの機会の確保 (B) 特別活動等において地域や社会とつながる機会の確保 (C) キャリア・パスポートの活用 | C ①県独ア 問18「自分という存在を大切に思える」における肯定的回答:1回目 81.25% ②県独ア 問21「高校入学以降、地域や社会をよくするために、地域貢献活動やボランティア活動などを行ったことがある」における肯定的回答:1回目 6.25% | (A) 学校行事等における人間関係づくりの機会の確保 (B) 特別活動等において地域や社会とつながる機会の確保 (C) キャリア・パスポートの活用 | B ①県独ア 問18「自分という存在を大切に思える」における肯定的回答:2回目 75% (-6.25p) ②県独ア 問21「高校入学以降、地域や社会をよくするために、地域貢献活動やボランティア活動などを行ったことがある」における肯定的回答:2回目 25% (+18.75p) | ・①において自己肯定感が減少しており、②の活動や生徒会活動等を通じて様々な経験から自尊感情を醸成するよう指導していく。 |
| 取組項目 | 【取組のねらい】 ○生徒の社会的自立・社会参画に必要な資質・能力の育成 ○地域・関係機関との連携 | ①県独ア 問19「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある」における肯定的回答:2回目=1回目+5p以上 | (A) 特別活動等において地域や社会について考える機会の確保 (B) 企業見学・ものづくり総合技術展見学の実施 | B ①県独ア 問19「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある」における肯定的回答:1回目 68.75% | (A) 特別活動等において地域や社会について考える機会の確保 (B) 企業見学・ものづくり総合技術展見学の実施 | B ①県独ア 問19「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある」における肯定的回答:2回目 47.9% (-20.85p) 総合的な学習に係る学習および活動において、地元中学校へアンケート依頼、町長に町づくり等をインタビューする、佐川のお勧めのもの・場所を集約したカレンダーを制作するなど活動を行った。 | ・教員が提供している教育活動が生徒にはうまく届いていないようである。 ・次年度の学習・活動を進めるにあたり、意味や効果も伝えながら取り組むようにしていく。 |
| | 【取組のねらい】 ○学習の基盤となる言語能力や情報活用能力の育成 ○各教科の学びを実社会での課題発見や解決に結び付ける力の育成 | ①県独ア 問10「学校の授業では、学んだ知識をもとに自ら考え、まとめたり、話し合ったり、発表したりする機会がある」における肯定的回答:2回目=1回目+5p以上 | (A) 生徒に思考・判断・表現させる機会の確保 ・発表機会がある授業の実施 (B) 校内生活発表会への取組の実施 | A ①県独ア 問10「学校の授業では、学んだ知識をもとに自ら考え、まとめたり、話し合ったり、発表したりする機会がある」における肯定的回答:1回目 100% | (A) 生徒に思考・判断・表現させる機会の確保 ・発表機会がある授業の実施 (B) 校内生活発表会への取組の実施 | B ①県独ア 問10「学校の授業では、学んだ知識をもとに自ら考え、まとめたり、話し合ったり、発表したりする機会がある」における肯定的回答:2回目 91.65% (-8.35p) | ・生徒が発表する場面や人に説明する場面等の設定を多様な活動でしている。生徒にとっては若干のハードルとなっているようだが乗り越えて克服してもらいたいと考える。 |

| チーム学校 | 取組のねらい【P】 | 現状と目標(評価指標) | 具体的な取組内容【D】 | 中間評価【C】 | 中間評価後の取組内容【P・D】 | 年度末評価【C】 | 見直しのポイント【A】 |
|-------|---|---|--|--|--|--|---|
| | 学校の振興 | ★学校の魅力化 ○一人ひとりの課題に応じた学び直し ○自分の居場所づくり | ①県独ア 県独ア 問6「学校生活は、充実している」における肯定的回答:2回目=1回目+5p以上 ②県独ア 問7「ホームルーム(クラス)では安心して過ごすことができる」における肯定的回答:2回目=1回目+5p以上 | (A) 全教職員での情報共有 (B) SC・SSWとの連携 (C) 保護者及び「佐川子どもとあゆむ会」との情報共有・連携業務の効率化に向けた環境づくり | B ①県独ア 県独ア 問6「学校生活は、充実している」における肯定的回答:1回目 68.75% ②県独ア 問7「ホームルーム(クラス)では安心して過ごすことができる」における肯定的回答:1回目 87.5% | (A) 全教職員での情報共有 (B) SC・SSWとの連携 (C) 保護者及び「佐川子どもとあゆむ会」との情報共有・連携業務の効率化に向けた環境づくり | A ①県独ア 県独ア 問6「学校生活は、充実している」における肯定的回答:2回目 79.15% (+10.4p) ②県独ア 問7「ホームルーム(クラス)では安心して過ごすことができる」における肯定的回答:2回目 91.65% (+4.15p) |
| 不祥事防止 | ★教職員の倫理観の堅持 ○不祥事防止対策の徹底 ○よりよい職場風土づくり ○教職員のメンタルヘルス ○不祥事発生時の適切な対応 | (現状) 現状は課題や問題点としては特にな ①校内研修の実施回数:2回以上 ②不祥事防止委員会の実施回数:3回以上 | (A) 全定合同校内研修会の実施 (B) メンタルヘルス・ハラスメントアンケート実施 (C) 風通しのよい職場環境 今後、不祥事発生防止に努めるため、日頃から風通し良く雑談を大切にする また誤送付等を防ぐためダブルチェックを行う | B (現状) 現状は課題や問題点としては特にな ①校内研修の実施回数:2回実施済み ②不祥事防止委員会の実施回数:2回実施済み | (A) 全定合同校内研修会の実施 (B) メンタルヘルス・ハラスメントアンケート実施 (C) 風通しのよい職場環境 今後、不祥事発生防止に努めるため、日頃から風通し良く雑談を大切にする また誤送付等を防ぐためダブルチェックを行う | A (現状) 現状は課題や問題点としては特にな ①校内研修の実施回数:4回実施済み ②不祥事防止委員会の実施回数:5回実施済み | ・校内の研修は多く実施している。 ・本校から発生しないよう、取組をを一層強化していく。 |
| 働き方改革 | ★長時間勤務の解消 ○業務の分担 ○年休等の取得推進 | ①時間外勤務月45時間以上:0名 ②学評ア「年休等が取得しやすい環境である」への肯定的回答:100% ③学評ア「現在の職場環境に満足している」への肯定的回答:100% | (A) 業務の効率化に向けた環境づくり (B) 年休等の取得の推進 (C) 風通しのよい職場環境 | B ①時間外勤務月45時間以上:0名 ②学評ア「年休等が取得しやすい環境である」への肯定的回答:アンケート未実施 ③学評ア「現在の職場環境に満足している」への肯定的回答:アンケート未実施 | (A) 業務の効率化に向けた環境づくり (B) 年休等の取得の推進 (C) 風通しのよい職場環境 | B ①時間外勤務月45時間以上:0名 ②学評ア「年休等が取得しやすい環境である」への肯定的回答:83%(5名/6名中) ③学評ア「現在の職場環境に満足している」への肯定的回答:83%(5名/6名中) | ・定例の職員会議でペーパーレス化を導入した。 ・生徒数および教員数が少ないため、常に全体での情報共有が行われている。 |